

令和7年度研究体制について

1 研究組織について

県小理研では、研究顧問、研推長、副研推長を中心として、研究構想を練り、各郡市より選出、もしくは希望された研究員とともに研究実践を行ってきた。そして各郡市では、県小理研の研究テーマを受けて、それぞれの地区毎にテーマを設定し、校外研等で研究実践を行ってきた。

今後さらに県の理科教育の推進、発展に寄与してくため、毎年開催している夏季ゼミの仕組みや発表方法について柔軟に捉え、これまで以上に、各地区で進めていただいている研究実践を交流させ、県下に広く発信していきたい。

2 令和7年度研究構想案について …詳しくは別紙参照

研究推進委員長が原案を作成し、常任委員会で検討し、代議員会で了承を得る。

3 研究員について

(1) 研究員決定までの手順

- ① 令和6年度中に各郡市へ候補者人数について伝達する。
- ② 令和7年4月 各地区理事は各市町と協議し、候補者を出す。
- ③ 各地区理事から、候補者の学校長、本人に研究員の依頼をする。
- ④ 承認していただけた場合は、研究員が、総合教育センターの理科教育講座（小）に申し込み、研修の行われる日時を確認する。

※申込期日後に地区の研究会があり決定が伸びる場合は、会長よりセンター研担当者に連絡する。

※研究員の選出にあたり協議事項が発生した場合は、会長と地区理事で話し合い決定する。

(2) 研究員の役割

- ・研究員として
 - …総合教育センターの理科教育講座（小）を受講する。（年間3回）
 - ・夏季ゼミナール、各小理研大会（全国、県）に参加する。
 - ・小理研の研究テーマに基づいた研究実践を進め、実践報告を行う。
→各市町村の年度末の市教研等で、実践報告がされると望ましい。
 - ・実践は、小理研HPに掲載など、広く発信できるようにする。

〒500-8384 岐阜県岐阜市藪田南5-9-1 TEL058-271-3450
総合教育センター 担当：岐阜県教育委員会教育研修課

- ・各地区代表として
 - …研究を広げるために、下記の会にて実践を発表する。
 - ・翌年の夏季ゼミナール（小・中）で実践を発表する。（3名程度）
 - ・研究員の代表者は代議員会で実践を発表する。（2名程度）
 - ・県大会において実践を発表する。
- ※特に開催地区での夏季ゼミナールでは当該地区の研究の成果を発表するためにも多くの発表者を選出する。

(3) 研究員の人数

例年の各地区の研究員の人数は以下の通りである。

地区名	岐阜	西濃	美濃	可茂	東濃	飛騨	合計
人数	7・8人	5・6人	2人	3・4人	3人	3人	23～26人

・ただし、年度によって各地区の人数は、変動することがある。

・実情に応じて、合計が25人前後になるようにしていく。

※現状を基本としながら、会員数等の実態を基に積極的な選出をお願いしたい。

(4) 講師について

研推長を含め6名程度で研究員の実践をサポートしていきたい。総合教育センターからの派遣申請がある講師以外は、小理研の推薦で補充していく。

4 夏季ゼミナールについて

(1) 会場（担当地区）

- ・1年ごとに各地区で持ち回る。

年 度	R 5年	R 6年	R 7年	R 8年	R 9年	R 10年	R 11年
地 区	飛驒	岐阜	美濃	可茂	東濃	西濃	飛驒

※令和3、4年度はオンラインシステムを利用して開催。令和5、6年度はオンラインシステムと現地参集型のハイブリッド型で開催。

※県大会担当地区が県大会実施の前年度に夏季ゼミを担当する。(R7美濃、R10西濃)

(2) 発表者

- ・担当地区からなるべく多くの発表者を募る。
- ・全県下より常任委員が募集する。
- ・研究員は研究員在籍年及び次年度に発表する。
- ・中理研にも発表者を依頼する。(小・中理研の交流)
- ・発表内容は1学期または前年度の実践報告(2学期以降の実践計画でもよい)

(3) 参加者

- ・担当地区は参集型での開催を原則とし、よりできるだけ多くの参加が得られるように呼びかけるとともに、オンラインでも開催し全県下で広く参加できるようにする。
(夏季休業中の各郡市の教科研究会と兼ねるなどの工夫もある。ただし、各郡市の部会長、事務局への報告、連絡、相談が必要。さらに中理研へも連絡する)
- ・全県より常任委員が募集する。

(4) 地区の担当業務

- ・実践発表者の手配(3名以上)
- ・会場の手配と当日の会場準備、設置
- ・講演会の手配(講演者の手配と打合せ)

(5) 県小理研事務局の担当業務

- ・実践発表者の不足分の手配(6名に満たない分、2、3名程度)
- ・助言者の手配(研究顧問・指導主事に依頼)
- ・オンラインシステムの運営(現在200名まで参加可能なグレードでWebExを契約)
- ・当日の運営(開閉会式、実践発表など)

5 県大会について

(1) 会場

- ・3年ごとに各地区で持ち回る。但し、令和元年度は全国大会を兼ねたため、下記のように変更した。
- ・会の持ち方については、担当理事と県小理研事務局で検討し、決定する。
- ・担当地区は、各市町の部員に運営の協力を依頼するとともに、学校や個人の発表にとどまらないよう、各市の研究推進ならびに部員の育成に努める。

年度	H19年	H22年	H25年	H28年	R元年(全国)	R5年	R8年	R11年	R14年	R17年
地区	西濃	岐阜	飛驒	可茂	岐阜	東濃	美濃	西濃	飛驒	可茂
会場校	池田小	牛牧小	東第一小	神湊小	長良西小・牛牧小・柳津小	上矢作小	未定			

(2) 令和8年度県大会について

- ・開催地区 美濃地区
- ・開催校 2校開催か(関市) 公開学年 年 年 授業検討会の有無
- ・全体会会場と講演者
- ・開催日時と当日の日程 予定日 昼食の有無 実践発表での郡上・美濃の動き